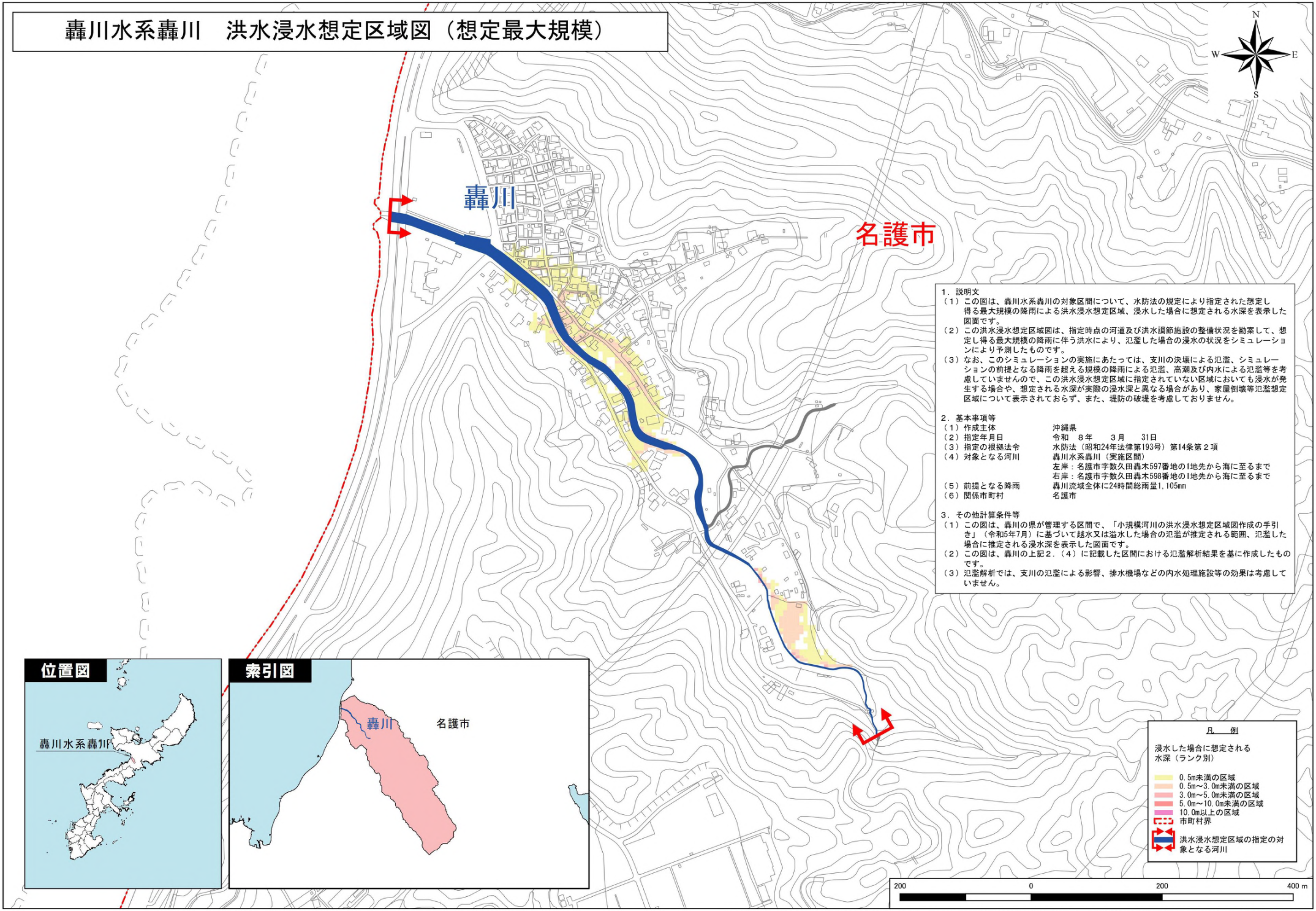
轟川水系轟川　洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



1．説明文

（1）この図は、轟川水系轟川の対象区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。

（2）この洪水浸水想定区域図は、指定時点の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により、氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。

（3）なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の決壊による氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があり、家屋倒壊等氾濫想定区域について表示されておらず、また、堤防の破堤を考慮しておりません。

2．基本事項等

（1）作成主体	沖縄県
（2）指定年月日	令和　8年　　3月　　31日
（3）指定の根拠法令	水防法（昭和24年法律第193号）第14条第２項
（4）対象となる河川	轟川水系轟川（実施区間） 左岸：名護市字数久田轟木597番地の1地先から海に至るまで 右岸：名護市字数久田轟木598番地の1地先から海に至るまで
（5）前提となる降雨	轟川流域全体に24時間総雨量1,105mm
（6）関係市町村	名護市

3．その他計算条件等

（1）この図は、轟川の県が管理する区間で、「小規模河川の洪水浸水想定区域図作成の手引き」（令和5年7月）に基づいて越水又は溢水した場合の氾濫が推定される範囲、氾濫した場合に推定される浸水深を表示した図面です。

（2）この図は、轟川の上記2．（4）に記載した区間における氾濫解析結果を基に作成したものです。

（3）氾濫解析では、支川の氾濫による影響、排水機場などの内水処理施設等の効果は考慮していません。

凡　例

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

- 0.5m未満の区域
- 0.5m～3.0m未満の区域
- 3.0m～5.0m未満の区域
- 5.0m～10.0m未満の区域
- 10.0m以上の区域
- 市町村界
- 洪水浸水想定区域の指定の対象となる河川

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました（測量法に基づく国土地理院長承認（使用）　R 7JHs 1086）